

会 議 録

件 名	三石小学校保護者説明会・意見交換会（第1回）
日 時	令和6年6月29日（土）午後4時00分から午後5時5分まで
場 所	三石小学校 体育館
参加者	保護者 26名（家庭数 23） 今田教育長、岡教育部長、阪口参事、丸山教育総務課長、大谷学校教育課長 長谷川生涯学習課長、森田教育相談センター長、簗下教育委員、中下教育委員、 吉田教育委員、東学校再編推進係長、東川、中山

今田教育長挨拶、丸山教育総務課長から資料説明の後、質疑応答、意見交換になりました。
なお、出席した保護者には、後日、意見等を記入できる用紙を配布しました。欠席した保護者にも資料を配布とともに意見等を記入できる用紙を配布します。

本説明で出された意見等は、以下のとおりです。

1. 今回の再編は議会等でも確認させてもらっています。人口減というところで、仕方ないところは分かるのですが、教育の質というところからお聞きします。

2つの学校が統合されるということで、統合したときの余った教師のリソースというのは、その学校にすべて行くのか。そこに先生を当てて、教育の質を高めていただけるのか。それとも別の学校の足りないところに行って、それを均等化させるのかというところがまず1点聞きたいのと、2点目は三石小学校のことではないんですけども、境原小学校と城山小学校の統合というところで、先ほど境原小学校で人数の減がなかったと思うのですが、これ災害対応の面というところで、こういった面があって城山小にという案になっているのかをちょっとお伺いしたいです。

（教育委員会）

1点目の教員の配置について説明します。教員の配置につきましては、基本的には法で定められていまして学級数で計算します。従って、2学級あれば2人配置ということになり、学校全体の学級数により定数が決まっているということになります。今回、柱本小学校と三石小学校が統合したと仮定した場合、学級数はその学校にある学級数で定数が決まるということですので、柱本小学校の先生が全員、三石小学校の先生と一緒に活動するというわけではありません。人数的には先生の数はいくつか増えるんですが、もともと2つの学校なので、溢れてくる教員が出てきます。その教員につきましては、橋本市、また伊都地方、和歌山県内で配分されることになります。

2点目の境原小学校の土砂災害対応のことについてです。確かに境原小学校の人数は今のところ増えている状況になっています。ただ、境原小学校は、土砂災害特別警戒区域に一部

が掛かっています。そのため、それに対する対応がなかなか難しいという面もありました。コンサルティング会社に調査を依頼し、2か所あるのですが1か所は土砂が崩れてくる方、1か所は下に崩れていく方というのがあります。崩れてくる方というのは、対応の方策があるのですが、崩れていく方については、対応が非常に難しいという形になっています。校舎そのものは、硬い岩盤の上に建っていますので、直接倒壊の可能性というのは少ないのですが、万が一大きな地震が来た場合とかにリスクをゼロにできないという面があり、今回、災害対応という面で城山小学校と統合という方針になっています。

(教育長)

私の方から、1点目のことに関してちょっと補足させてください。基本的な話は先ほどのとおりで、これはもう日本どこにおいても、学校の学級数に応じた教員配置になります。しかしながら、学校再編等で一緒になった場合、一定の子供たちへのフォローとか、これまでになかったような取組をしていかなければならないということで、県教育委員会の方からプラスアルファの先生をもらうようなことを教育委員会としても進めていきたいというのが1点あります。これは県から指定される教員の数なんですけど、一緒になったときのことを考えると、県からの配置だけではなく、市独自でも非常勤という形にはなるのですが、子供たちをサポートする、特に低学年であったり、特別支援学級であったり、サポートを必要とするところについては、フォローしていけるように配置をしていこうと考えています。そのことによって、先生方の負担軽減、ひいては子供たちの勉強をしっかりしてもらえる環境づくりに努めていきたいと思っています。

2. 資料の19ページあたりの話ですけど、中学校区単位で検討、適正配置の方針とするところなんです。1つ目で確認したいのは、中学校はもうそのまま、学校の再編などはされないってことでよろしいでしょうか。2つ目は20ページのところのスクールバスなど書いているんですけど、何かそれ以外の方法も考えているのかということと、あとはスクールバスやったら何かまた予算とかが必要になってくるんですけど、そのあたりの何か算段とかがあるのかなというのはちょっと気になりました。

(教育委員会)

まず中学校のことのご質問についてです。資料にある紀見北中学校区の児童生徒数ということで、中学校におきましても減少は否めないという状況になっています。ここに書かれてある数字につきましては、令和5年度までに紀見北中学校区内で生まれたお子さんの数を、そのまま小学校に入学したり、中学校に入学すればという数字で推計値を出しています。

第1期の基本方針の際には、中学校の場合はクラス替えができない状態になると統合を検討していくということがありまして、平成28年度に、当時の学文路中学校・西部中学校・橋本中学校が、橋本中央中学校になったという経緯がございます。当時の平成26年の方針の中では、この紀見北中学校も令和4年度ぐらいに生徒数が100名前後になってくるといって推計値を出させていただいておりました。ただ、実際のところは、160名ほどの生徒さん

がおられたということで、再編の検討をすることはありませんでした。そういう経過から見ますと、やはりこの紀見北中学校区は、転入の人口が非常に多いと推測されます。現状では10数年後ですけど、紀見北中学校の生徒数は100名を切ってくる可能性が出てきているのですが、やはり、これからの街の開発とか宅地造成とかというところも考えてみますと、今回の第2期の基本方針の中では、中学校については現状のままにしておくということになっていますので中学校についての再編については検討しておりません。

ただ、第1期の方針の中で、長期的には中学校は4校が望ましいという方針については変更していませんので、今後、人口の推移、まだ児童生徒数の推移を見ていくことになるかとは思いますが、1点目については以上です。

次の2点目のスクールバスなどについてのところですが、このスクールバス、いわゆる子供さんだけが乗っているスクールバスというのがあるかと思いますが、それ以外に、例えば、路線バスの利用であるとか、もし人数がすごく限られてる場合にはタクシーの借り上げとかというのが考えられます。その予算についてですが、保護者の負担にならないように予算の獲得に向けて、私達も取組でいかなければならないと考えているところです。

3. 合併する方としての三石小学校を考えたときに、スクールバスで子供を、ということなんですけど、今、その学校の駐車場のところが、迎いの車とかで結構、非常に混雑するんです。スクールバスを検討して、他の学校から来るだろう子供さんは車で送ってきたりが考えられますので、そういうのに対処した整備とか、あと学校自身も、例えばシーソーが壊れているけど直してもらいにいくとか、予算的になんか厳しいと聞いていたりするのですが、合併することでちょっと予算というか、学校の環境が良くなったりとかは考えられますのでしょうか。

(教育委員会)

スクールバスをもし運行した場合に、駐車場の問題とかなんですが、限られたスペースではあるかと思うのですが、できるだけ混雑緩和できるようにこれから考える形になります。こういった動かし方であったり、混雑を避けるような取組というのを考えていかなければならないと思っています。また、施設の整備についても、留意点でもあったかと思いますが、整備を進めていく形で、できるだけ良い環境で学んでいただけるように取組でいきたいと思っています。

4. クラス替えができなくなるので、合併という話をよく聞くというか、そこを主軸に聞いていたんですけども。現在、自分の子供の学級の人数も正確に覚えてないのですが、20数名で1クラスになっていると思うんですけども、自身が小学生のころに比べて大分減って、先生がものすごく一人一人見ていただいているという感想を持っているんです。教育の目標みたいなところでもさらに一人一人の子供を見ていくみたいな形で目標にされていると思いますが、逆にクラスの人数をさらに減らしてというか、1クラス20数名必要であ

れば40人ぐらいいないとクラス替えができないシステムになると思うんですけども、例えば極論ですけど、1学年30人になっちゃいました。15人、15人で2クラスができるようなシステムにしていけば、教育的にもコストパフォーマンスとかいろんなもの弊害があるかもしれないんですけど、さらに先生としては負担も減って、延命措置的な形になるかもしれないんです。学校併合がちょっとマシになる、先延ばしにできるのかなというのを思っておりまして、そういう検討ってされてるのかなというのが1点と、もう1点が橋本中央中学校が合併された際に、いろいろ問題があったとか、デメリットがあったっていうようなご発言もあったんですけども、実際それって今思いつく部分でもいいでしょうし、今回合併したら似たような事例が出てくるので、先に対策とかされているのかなというのが、もう1点、3点目、今回この会議を催していただいて、これ1回でこの保護者会の説明が終了した形になるのか。すごく個人的な意見ですけど、学校の行事で保護者さんが結構集まったりするタイミングもあるので、その時に同時に開催していただいたら参加率もちょっと増えるのではないかと個人的に思って、以上3点お聞きしたいのでよろしくお願いいたします。

(教育委員会)

1点目についてお答えします。30人ぐらいでクラス分けできたらということなんですが、私たちもできればそうしたら、できたらいいなと思っているところは正直なところあるんですが、現在は、国の規則また県の規程で35名1学級と決まっています。基本的にはそれに基づいて行っているというのが現状です。ただし、学級の状態等を見まして、そのクラスを2つに分けるという前に、例えば先ほど教育長の方からもありましたが、臨時でもう1人先生を教室に配置するということは、これからも努力していきたいなと考えています。また、学校によっては、校長先生の判断で2つのクラスにこの学年だけは分けていきたいと判断された場合は、2つに分けるということも当然できることもあります。ただし、これにつきましては、財政面での折衝も関わってきますので、なかなかそう簡単にはいかない部分があります。我々もできる限り子供たちによりよい環境ということで、ご質問いただいたことは考えてはいるのですが、なかなか全体を通して見たときには、押しなべてした形にしかないということ、ちょっとその辺はご了解いただけたらと思います。

2点目と3点目を答えさせていただきます。まず、平成28年に橋本中央中学校ができたのですが、その時、統合が決定したのが平成26年でした。統合の2年前に決定はしているわけですが、その2年ということで、対象の子供さんが当時の中学1年生の子供さんと、該当する小学校の5年生と6年生のお子さんが対象になりました。4つの小学校が対象になったんですが、橋本小学校・西部小学校・清水小学校・学文路小学校の4小学校の5年生6年生の子供さんにアンケートを取らせていただきました。自由に子供さんに書いていただくというやり方でおこなったんです。小学校5年生6年生の子供さんの意見でやはり多かったのが、友達関係の不安、友達できるかなという、そういう不安というのが結構多かったという印象です。逆に言えば、たくさん友達つくれるということもあるんですけども、不安の

方が大きかったのは確かです。中学校1年生の生徒さんにつきましては、友達のところも多かったんですが、クラブ活動で選択が増えると、やはり人数が増えることで今まで1中学校での部活動に制限があったのですが、選択肢が増えるということで中学校の生徒さんについては、そういう期待もあったということが結果として出てきています。

やはり学校の方でも、教育委員会の方でも、子供が一緒になったときに友達できるかなというところの不安をどうやって払拭していくかということが、結構すごく課題になっていたと聞いています。当時、橋本中央中学校の先生方につきましては、大変その点についてはご苦労されたと聞いています。そういうことがありましたので、今回の学校再編については、やはり事前の子供たちへのフォローであったり、事後のフォローであったり、その辺をしっかりと計画的にしなければならないということで、先ほど説明しましたが、検討委員会から意見、答申をいただいていますし、その中でも保護者の皆さんからもそういうご意見をたくさんいただきました。そういうことがあるので、学校だけではなしに、教育委員会、それから専門の発達相談員であったり、スクールカウンセラーであったり、そういう専門職の配置も増やすような形で、子供たちの心に寄り添って学校再編が進められればなどと考えています。また、保護者の方も同様に不安を抱えられる方も多くおられるかもわかりませんので、その保護者の皆様にも、いろんな相談する場を設定させていただくなどの工夫をしていく必要があるということで、その辺については準備を進めていきたいと考えています。

この説明会ですが、この三石小学校で該当する学校については全て終わります。この後、7月中旬以降から、地域説明会に入っていきます。下旬には、未就学の保護者の皆様に同様の説明会をします。それらをした上で、たくさんご意見をいただいていますので、また、整理をして保護者の皆様にお返しをしていかなければならないと思っていますので、2回目の説明会も予定をさせていただきたいと思っています。

今いただいたご意見、都合のよいタイミングもあるかと思うんですが、PTA会長さんと相談させていただきながら、他の8つの小学校とできるだけ足並みそろそろ形でご説明する場を設定できたらと思っています。

(教育長)

私の方から補足1点させていただきます。今、教育委員会としての取組ということで説明をさせてもらったんですが、こういった一緒になるということに関しては、学校でもかなり取組をしてもらいました。具体的に申しますと、一緒になるまでに同じ学年の6年生が一緒の行事を何かしてみたり、そして交流、勉強の場での交流もしてみたりということが学校でかなり工夫してくれたところです。それと、それぞれの学校にはそれぞれの学校のカリキュラム、それぞれの教科の勉強は同じように進めるんですけど、いろんな行事ごととか各学校で違いというのがあるので、そのあたりを学校ごとで、どうやって一緒にしていくかというようなことも学校では行っていると思います。ですから、その中でどれを残して、どれを削らざるを得ないのかなというのは、そういったことを決めるのは、学校長の権限として決められていますので、そこは学校長が考えたことについて、教育委員会としてもフォロー

していくところはしていくというようなことも取組でいたというのもお知りおきください。

それと、小学校ではあまりないんですが、中学校の場合、一緒になることによって教員の数が増えます。特に中学校については、教科の免許を持っているかどうかというのがすごく重要になってきます。少ない学校であれば、免許を持っていない先生が教えなければならぬというような状況にもなります。免許外の先生が教えるということになるんですが、できるだけそういったことは避けていかなければならない。そのために、規定の先生の数よりもプラスして配置することで解決できるんですが、先ほどの説明にもあったように、なかなかそれは、その数だけ入れてくださいと言っても入れてもらえることは少ないんです。

だからこそ中学校の場合は、一定の集団を確保するということは子供たちへの教育の中身にも関わってくるということもあるということを、少し知っておいていただければありがたいと思いますので付け加えさせていただきました。

説明会に出席していただいた保護者の皆様から意見書に記入いただいた意見、並びに欠席された保護者から提出いただいた意見の内容です。

5. 中学校に関して、現状、三石小は紀見北中学校に通うことになると思いますが、教員配置を優先し3学級以上になるように統廃合の時期を検討していただきたいと考えています。この校区は、私学進学する子供が多いと伺っていますので、予測されている児童生徒数の推移より、少なくなることが見込まれているのではないのでしょうか。今が適切ではないという意味ではありませんが、地方公立校も適切な教育を受けられるようご検討お願いいたします。

6. 問題ありません。よろしくお願いいたします。

7. 適正化によって、子供たちは多かれ少なかれストレスを感じることでしょう。大切な子供たちが、伸びやかに成長していけるようフォロー体制をしっかり構築してほしいと思います。

8. 少子化により、小中学校の統合は必要な対策かと思いますが、通学条件にある通学距離2kmや5kmはとても長いように感じます。また近年の異常気象や突然の大雨もあり、毎日子供たちが徒歩で往復するには厳しい条件だと思います。そのため、廃校となる学区から統合先の小中学校までスクールバスを出してもらいたいです。バスの運行費用に関しては、学校の全生徒世帯を対象として学校運営、教育費の中に組込んでいただいて大丈夫です。子供が安全に登下校できることが大切かと思います。

9. いつもありがとうございます。気になる点は、通学路や駅周辺の電灯の設置、特に車の事故は増加しているので、全ての道路に優先順位を上げた上で、ガードレール設置できればと。また、小学生が中学校のプールを借りて授業をしていて事故があったニュースより、やらなくていい事は無理をしてやらなくてもいいのでは。社会見学で熱中症となり病院搬送のニュースより、複数人数の発症は、日頃から先生とのコミュニケーションが必要なのではと感じました。先生たちも働きやすい、先生の家族も健やかに暮らせるように。大阪では、一人一台タブレットを渡され、宿題も送信で同学年でもキーボード打ちができますが、現在橋本市では、キーボード操作が普通にできるレベルに達していないのは、適正規模に関係ありますか。授業スタイルが多様化しているのであれば、評価も成績表ではなくてもいいのではないかと思います。人数減少はわかっているので、ICT活用等、今後役に立つ授業に舵をきっては。

10. 少子高齢化対策は必要です。その中で統合も致し方ないことでしょう。私自身、恋野

小学校出身者なので、低学年、幼稚園の頃は、片道1時間かけて通学したものです。人数も1学年14～25名の1学級でした。必ずしも2学級に…、スクールバス運行を…と決めつけず、その都度、何度も意見交換を学校内で試みては？いったん決定してしまったら、なかなか元には難しいです。14名でも1学級の学年もあったので、いまだに40年後でもとても仲が良かったです。縦の関わりの中、知らない子はあまりなくて、気安く声をかけ合えるのも少人数の良さでもあります。先生方が見守りやすいクラス人数の編制、運動会や行事など競い合ったり、縦横の関わりができるようであれば良いと思います。

11. 子供の意見も聴いてみました。1学年の生徒数が増えることは、お友達も増えるので嬉しいようです。けれど、1クラス内の人数が増えると教室がパンパンになるからいやだと言っていました。親としても同意見です。1クラスの人数は多くなると先生も大変な状態になるのではと心配です。通学に関しては、三石小学校区内はそれほどではないかと思いますが、他の学区はかなりの距離があり、スクールバスの対応があっても登下校時間が限定的になり、日々いろいろなことが起こる中、臨機応変な対応が難しいと思います。統合で場所が移動する側の学校の生徒は、寂しい気持ちになるのではと思います。意見を聞いていただき、ありがとうございました。

12. 小中学校は、1学年2学級以上が適正だと思います。児童数が減少し、今後も状況が好転する見込みがないので、統廃合せざるを得ない。見直しをする時期にきていると思います。

13. もともと子供が自閉症だったため、自然も多く、のんびりできる橋本市に春、引越してきました。三石は受験する人が多いと聞きましたが、小学校と中学校の人数が、あまり変わらなことにびっくりしました。現在の学級数、人数はちょうど良いかなと思います。でも少子化でこれを維持できるかという何とも言えません。ここは車社会ですが、自分は車がない、今後も持つ気はないですが、子供に不便にならないよう生活できればと思います。

14. 少子化による生徒数の減少は、これからさらに加速の一途です。活力のある学校作り、地域の実情に応じて学校の規模や配置を適正化するためには、以下のような取組が考えられます。「1. 学校の統廃合」生徒数の減少に対応するため、複数の学校を統合することで効率的な運営が可能となります。「2. 学校の多機能」学校施設を地域のコミュニティセンターとして活用することで、地域住民にとっても利便性の高い場所となります。

「3. ICTを活用した教育」オンライン授業や遠隔教育など、ICTを活用した教育を導入することで地域と学校間の連携や教育の質の向上が図れます。

15. 今後、中学校の学校再編がどうなっていくのか気になります。

16. 1クラスに先生が一人ではなく、もう一人サポートの先生がついたらと思う。バス通学は、徒歩で通えるようであれば通ったらいいいし、無理ならば、バスで通う選択ができたらいいい。

17. 子供にとっては、2学級以上がよいと思います。学校のつくり的に、児童と車が同じところを出入りしているので、送迎車両がさらに増えるのなら、歩いて登下校する児童の安全が守られるように保護者の自覚が大切だと思います。

18. 少子化が進んでいる中で、統合されていくのは仕方のないことだと思います。スクールバスなど運行していくことになると思いますが、バスに置き去りにされる事件等も起こっているのです、事件、事故が起きないように、できる限り心を配っていただければと思います。

19. 一人っ子ですので、配布された資料によると、統廃合の目安として示されている年度より、このまま我が子は、三石小を卒業予定で紀見北中学校も卒業できると判断し、特段何の統廃合による混乱に巻き込まれることもないと考え安心していきます。昨今の少子化を考えると統廃合の流れはやむなしと思います。私と夫は、柱本小学校、紀見北中学校の卒業生でもありますので、母校の統廃合は気にかかる場所でもあります、母校が廃れて活気がないよりは、今から育つ地域の子供たちが健全に学べる学校づくりの方が大切だと考えています。全国のニュースなど見ますと、統廃合はすでに卒業している方や地域の高齢者が反対するケースが多いそうです。大事なのは、今の子供たちであると思います。統廃合やむなし。

20. 先日は参加できず申し訳ありませんでした。学校の統合は良いと思います。たくさんの子供がいる中で生活し、いろいろな考え方を持っている子がいることや、触れ合いをしていってほしいです。また、スクールバスを運行する場合、登校中の子供の安全を考えて先生方や地域の方にご協力してもらって、隣のこども園のバスや車の安全面も含め、対策を考えてほしいです。

21. 少子化や社会環境の変化に応じて変化するのは当然のことだと思います。「子供ファースト」で取組んでいただきたいと思います。

22. 統廃合は避けられないが、今後3年間の意向は早急のようにも感じています。学童が統合後の小学校では、学童利用者の送迎や現校医での学童施設維持などはどうなる

のか、と感じています。